

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	健康危機状況における看護			担当講師	皆川 佳代子		
分 野	専門Ⅱ	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2 年次	学 期	前期
概 要	急性期は突然発生し生命や健康の危機状態におかれるため、治療優先になりがちであるが、対象の精神的な衝撃は大きく、また自律性は最大限に尊重していかなければならない。成人期は多様な社会的役割を有することから、健康や生命の危機状態において、役割や価値観の変容を余儀なくされることがあり、またその影響は家族にも及ぶ。 本科目では、周手術期を含む急性期を健康危機状況と捉え、健康危機状況にある対象を家族を含めて捉えられるよう学習する。また、侵襲に対する生体反応を含めた身体的特徴や、精神的・社会的特徴を既習の理論と結びつけながら捉え、それぞれの場で行われる看護について学習する。						
到達目標	1. 健康危機状況にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 2. 周手術期にある対象を統合的に捉え、侵襲的治療を受ける対象の看護の特徴を理解する。 3. 急性状態、生命や健康の危機状況にある対象の看護を理解する。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	健康危機状況とは 健康危機状況における看護の特徴	講 義
2	生命の危機状況にある人の看護（1）	講 義
3	生命の危機状況にある人の看護（2）	講 義
4	生命の危機状況にある人の看護（3）	講 義
5	周手術期における看護（1）開心術を受ける人の看護①	講 義
6	周手術期における看護（2）開心術を受ける人の看護②	講 義
7	周手術期における看護（3）開胸術を受ける人の看護①	講 義
8	周手術期における看護（4）開胸術を受ける人の看護②	講 義
9	周手術期における看護（5）開胸術を受ける人の看護③	講 義
10	周手術期における看護（6）開腹術を受ける人の看護①	講 義
11	周手術期における看護（7）開腹術を受ける人の看護②	講 義
12	周手術期における看護（8）開腹術を受ける人の看護③	講 義
13	周手術期における看護（9）開頭術を受ける人の看護①	講 義
14	周手術期における看護（10）開頭術を受ける人の看護②	講 義
15	まとめ・終講試験/解答・解説	講 義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学②③⑤⑦ 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院
参考書	
備 考	

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	セルフケア再獲得に向けての看護			担当講師	上田 純也・皆川 佳代子		
分 野	専門Ⅱ	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2 年次	学 期	前期
概 要	自らのアイデンティティや生活スタイルがほぼ、あるいはすでに確立した成人期に差し掛かってから、外傷や疾病によって、新たに生じた障害とともに生きていくことは容易ではない。単なる日常生活の身辺処理に対する代償方法の獲得に限らず、自己価値の動揺から立ち直り、障害をもつ自分の人生の目標を立て直し、社会に参加するために自分自身と自分の周囲を調整していく能力を身につけられるような支援が必要となる。 本科目では、生活に軸足を置いた視点でセルフケアを捉え、その人らしい生活を再構築していくための支援方法を学ぶ。さらに、患者の家族は患者の最大のサポートシステムとしてみなされ働きかけられるが、家族もまた障害に巻き込まれている当事者であるという見方も重視し、家族の危機に対する援助の方法も学ぶ。						
到達目標	1. セルフケア再獲得に向けて援助が必要な対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 2. 障害の受容過程を理解し、必要な支援を考える。 3. その人らしい生活を再構築していくための対象の看護について理解する。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	セルフケア再獲得とは	講 義
2	セルフケア再獲得を支援するシステム 家族への支援	講 義
3	セルフケア再獲得に向けた援助：経過別リハビリテーション	講 義
4	セルフケア再獲得を目指す看護の実際（1）脳神経機能障害がある人の看護①	講 義
5	セルフケア再獲得を目指す看護の実際（2）脳神経機能障害がある人の看護②	講 義
6	セルフケア再獲得を目指す看護の実際（3）脳神経機能障害がある人の看護③	講 義
7	セルフケア再獲得を目指す看護の実際（4）運動機能障害がある人の看護①	講 義
8	セルフケア再獲得を目指す看護の実際（5）運動機能障害がある人の看護②	演 習
9	セルフケア再獲得を目指す看護の実際（5）運動機能障害がある人の看護③	演 習
10	セルフケア再獲得を目指す看護の実際（6）消化機能障害がある人の看護①	講 義
11	セルフケア再獲得を目指す看護の実際（7）消化機能障害がある人の看護②	講 義
12	セルフケア再獲得を目指す看護の実際（8）セクシャリティが障害された人の看護①	講 義
13	セルフケア再獲得を目指す看護の実際（9）セクシャリティが障害された人の看護②	講 義
14	セルフケア再獲得を目指す看護の実際（10）セクシャリティが障害された人の看護③	講 義
15	まとめ・終講試験/解答・解説	講 義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤⑦⑩ 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院
参考書	
備 考	

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	緩和ケアを必要とする人の看護			担当講師	佐藤 絹代		
分 野	専門Ⅱ	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2 年次	学 期	前期
概 要	死が間近に迫り、身体の変化が不可逆になると、病気治療よりも患者の感じる全人的苦痛を緩和し、対象のQOLを考えながらその人らしさや自律性をもった個人として生きる権利を守るための関わりが重要になる。 本科目では、症状のメカニズムや対象の苦痛を理解し、看護の基盤となる症状緩和のための知識やケアの方法などを学び、成人期で人生の最後の時を迎える対象の援助の必要性を深める内容とする。						
到達目標	1. 終末期にある対象の身体的・精神的・社会的・霊的な苦痛を理解する。 2. 対象のQOLの維持・向上を目指した援助方法、緩和ケアについて理解する。 3. 死のプロセスを理解し、受容段階や症状に応じた看護を理解する。 4. 終末期にある患者の家族の特徴を理解し、家族への支援を理解する。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	緩和ケアとは	講 義
2	緩和ケアを必要とする対象の理解 全人的苦痛の理解	講 義
3	緩和ケアを必要とする対象の看護（1）身体的ケア①	講 義
4	緩和ケアを必要とする対象の看護（2）身体的ケア②	講義・演習
5	緩和ケアを必要とする対象の看護（3）精神的ケア	講 義
6	緩和ケアを必要とする対象の看護（4）社会的ケア・霊的ケア	講 義
7	緩和ケアを必要とする患者の家族の理解と看護	講 義
8	緩和ケアの実際（1）血液造血機能障害がある人の看護①	講 義
9	緩和ケアの実際（2）血液造血機能障害がある人の看護②	講 義
10	緩和ケアの実際（3）血液造血機能障害がある人の看護③	講 義
11	緩和ケアの実際（4）栄養・代謝機能に障害がある人の看護①	講 義
12	緩和ケアの実際（5）栄養・代謝機能に障害がある人の看護②	講 義
13	看取りのケア（1）	講 義
14	看取りのケア（2）	演 習
15	まとめ・終講試験/解答・解説	講 義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学④、⑤ 医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 終末期看護「エンド・オブ・ライフ・ケア」メヂカルフレンド社
参考書	
備 考	

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	成人の看護過程			担当講師	船橋 悦子		
分 野	専門Ⅱ	授業方法	演習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2 年次	学 期	前期
概 要	成人期の発達段階や発達課題、身体的、心理的、社会的特徴を踏まえ、事例の情報分析・解釈から看護計画立案・援助の実施・評価まで、急性期から回復期にある対象の看護過程の展開を実施する。既習の学習内容を想起し、形態機能学、疾患の病態生理の知識を元に、患者に出現している症状、徴候を理解し、また生活する成人の視点を持ちながら患者を統合して捉えることを目指す内容とする。 また事例を通し、基礎看護技術で学んだ知識、技術を統合して成人に必要な援助を考え、看護技術の向上に努めていくとともに、成人期における対象への指導技術の習得を目的とし授業を構成する。						
到達目標	1. 成人期にある人の特徴・発達段階を踏まえた、看護過程の展開を理解する。 2. 看護過程の展開を通して、成人期に必要な援助技術を習得できる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	成人看護過程演習(1) 手術前の看護	講義・演習
2	成人看護過程演習(2) 術直後の看護	講義・演習
3	成人看護過程演習(3) 術直後の看護	講義・演習
4	成人看護過程演習(4) 術直後の看護	講義・演習
5	成人看護過程演習(5) 術後～回復期① 情報整理・分析・解釈	講義・演習
6	成人看護過程演習(6) 術後～回復期② 関連図	講義・演習
7	成人看護過程演習(7) 術後～回復期③ 問題の明確化・計画立案	講義・演習
8	成人看護過程演習(8) 術後～回復期④ GW発表	演習
9	指導技術演習(1) 指導に必要なツールの作成	講義・演習
10	指導技術演習(2) GW発表	演習
11	事例に基づく技術演習(1) 術直後の観察・ドレーンの管理	演習
12	事例に基づく技術演習(2) 術後の体位変換・早期離床	演習
13	事例に基づく技術演習(3) 点滴挿入中の清拭・寝衣交換	演習
14	事例に基づく技術演習(4) 援助の評価	講義・演習
15	まとめ・終講試験/解答・解説	講義

評価方法	客観試験
教科書	
参考書	成人看護学 「周手術期看護論」 ヌーヴェルヒロカワ 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学「基礎看護技術Ⅰ」 医学書院 「看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践」ヌーヴェルヒロカワ ヘンダーソンの基本的看護に関する「看護問題リスト」ヌーヴェルヒロカワ
備 考	

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	高齢者の日常生活援助技術			担当講師	根本 弘美		
分 野	専門Ⅱ	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2 年次	学 期	前期
概 要	高齢者は加齢変化や健康障害によって容易に生活能力の機能低下が起こる。そのため高齢者の身体や生活能力をアセスメントし、高齢者およびその家族への生活の支援が求められる。本科目では、高齢者の生活や家族を理解した上で、動作・食生活・排泄・清潔の援助を高齢者の生活を支える援助として学ぶ。						
到達目標	1. 加齢変化に伴う日常生活への影響を理解する。 2. 生活能力の機能低下防止に向けた援助を習得する。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	高齢者のフィジカルアセスメント（1）	講 義
2	高齢者のフィジカルアセスメント（2）	演 習
3	高齢者の日常生活拡大のためのアセスメント	講 義
4	生活を支える看護（1）コミュニケーション	講 義
5	生活を支える看護（2）コミュニケーション	講 義
6	生活を支える看護（3）歩行・移動①	講 義
7	生活を支える看護（4）歩行・移動②	講 義
8	生活を支える看護（5）廃用症候群予防に向けた援助	演 習
9	生活を支える看護（6）食事①	講 義
10	生活を支える看護（7）食事②	講 義
11	生活を支える看護（8）食生活の支援に向けた援助	演 習
12	生活を支える看護（9）排泄、清潔・衣生活	講 義
13	生活を支える看護（10）排泄への援助	演 習
14	生活を支える看護（11）活動と休息・睡眠	講 義
15	まとめ・終講試験/解答・解説	講義

評価方法	客観試験		
教科書	ナーシング・グラフィカ 老年看護学「高齢者の健康と障害」	メディカ出版	
	ナーシング・グラフィカ 老年看護学「高齢者看護の実践」	メディカ出版	
参考書			
備 考			

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	高齢者の健康障害時の看護			担当講師	関 茂之		
分 野	専門Ⅱ	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	人口の高齢化に従い、健康障害を有する高齢者も増加している。本科目では、高齢者の健康障害の特徴と援助方法を概観した上で、高齢者に多い症状・状態に応じた看護、治療・処置を受ける高齢者の看護、終末期にある高齢者の看護を学ぶ。						
到達目標	1. 高齢者の多い疾患の理解と、健康障害に応じた看護について理解する。 2. 高齢者を介護する家族への看護について理解する。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	疾患・障害に対する看護（1） 脱水、摂食・嚥下障害、低栄養	講 義
2	疾患・障害に対する看護（2） 骨粗鬆症、パーキンソン病	講 義
3	疾患・障害に対する看護（3） 痛み・しびれ・痒み	講 義
4	疾患・障害に対する看護（4） 尿失禁、便秘・下痢、感染症	講 義
5	治療を受ける高齢者の看護（1） 薬物療法・手術療法	講 義
6	治療を受ける高齢者の看護（2） リハビリテーション	講 義
7	治療を受ける高齢者の看護（3） 診察・検査、入院	講 義
8	治療を受ける高齢者の看護（4） 退院、在宅	講 義
9	認知症・うつ病・せん妄の看護（1） 認知症	講 義
10	認知症・うつ病・せん妄の看護（2） うつ病・せん妄	講 義
11	終末期の看護（1） 終末期看護の実践	講 義
12	終末期の看護（2） 看取りを終えた家族への看護	講 義
13	家族への看護（1） 高齢者を介護する家族の生活と健康	講 義
14	家族への看護（2） 家族介護の課題	講 義
15	まとめ・終講試験/解答・解説	講 義

評価方法	客観試験
教科書	ナーシング・グラフィカ 老年看護学「高齢者の健康と障害」、「高齢者看護の実践」
参考書	
備 考	

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	高齢者の看護過程			担当講師	根本 弘美		
分野	専門Ⅱ	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	15 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	高齢者看護においては、高齢者に起こりやすい変化を理解し、幅広い観察力とアセスメント力、活動耐性の評価方法、機能低下防止、個別の生活援助に関する知識・技術が必要である。そのため本科目では、健康を障害された高齢者の生活機能の観点からアセスメントし、看護を展開する方法を学ぶ。						
到達目標	1. 高齢者の特徴を踏まえ生活機能に着目した看護過程を学ぶ。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	高齢者の看護における生活機能分類	講義
2	高齢者の看護過程の事例展開 事例紹介：1～2事例の看護過程を展開する 多重疾患、認知症高齢者の生活支援の理解 高齢者家族を含めた看護援助の実際・・・ロールプレイ	講義・演習
3		
4		
5		
6		
7		
8	レポート・試験 ／ 解答・解説	講義

評価方法	客観試験、レポート
教科書	ナーシング・グラフィカ 老年看護学「高齢者の健康と障害」メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 老年看護学「高齢者看護の実践」メディカ出版 ヌーベルヒロカワ 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践
参考書	
備考	「老年看護学概論」「高齢者の日常生活援助技術」「高齢者の健康障害時の看護」での学びを活かし学習しましょう。また、1年次に学んだ看護過程が基礎となります。予習して臨みましょう。

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒	
科目名	さまざまな状況にある子どもと家族の看護			担当講師	神 清美			
分 野	専門Ⅱ	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験			
単位数	1 単位	時 間	15 時間	学 年	2年次	学 期	前期	
概 要	近年少子化を対象とした医療の場の減少は、大きな社会現象になっている。入院期間が短縮化し、慢性疾患の管理や人工呼吸器などの在宅医療を受けながら生活する子どもも増えており、外来看護の役割が期待されている。 また、子どもと家族にとって望ましい入院環境は、単なる治療の場ではなく成長に向かう「成長の場」として捉える視点が必要である。そのためには、入院療養中であっても継続的な保育や教育を受けることができ、子どもや家族にとって不安やストレスを最小限にとどめるための援助が必要である。本科目では、受療のさまざまな場面における子どもと家族への看護を学ぶ。							
到達目標	1. 外来受診をする子どもと家族の理解をとおして、外来看護の役割を学ぶ。 2. 入院している子どもと家族の理解をとおして、入院が影響する不安やストレスを最小限にするための援助を、子どもの発達段階ごとに学ぶ。 3. 受療のさまざまな場面をとおして、子どもと家族に寄り添う看護のありかたを理解する。							

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	外来における子どもと家族の看護	講義・GW
2	入院中の子どもと家族の看護	講義・GW
3	検査・処置を受ける子どもと家族の看護	講義・GW
4	周手術期にある子どもと家族の看護	講義・GW
5	急性期にある子どもと家族の看護	講義・GW
6	慢性期にある子どもと家族の看護	講義・GW
7	終末期にある子どもと家族の看護	講義・GW
8	まとめ・終講試験/解答・解説	講義

評価方法	客観試験		
教科書	系統看護学講座 系統看護学講座	専門分野Ⅱ「小児看護学概論・小児臨床看護総論」 専門分野Ⅱ「小児臨床看護各論」	医学書院 医学書院
参考書			
備 考			

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	子どもの健康状態に応じた看護			担当講師	藤岡 寛		
分 野	専門Ⅱ	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時 間	30時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	小児期の発病や重篤な健康問題は、子ども自身の成長発達に大きな影響を及ぼすばかりでなく、家族のセルフケア能力を低下させる。これらのことを理解しながら、子どもの健康障害が子どもとその家族に及ぼす影響が最小限になるよう、子どもと家族に必要とされる援助の方向性と看護の役割を学習する。						
到達目標	1. 子どもの疾患の特徴と、病態生理・検査、治療、処置を理解する。 2. 健康障害が子どもと家族に及ぼす影響と反応を、発達段階に応じて理解する。 3. さまざまな健康問題をもつ子どもとその家族への援助方法を学ぶ。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	子どもに特徴的な疾患	講義
2		講義
3		講義
4		講義
5		講義
6		講義
7		講義
8	子どもに多い疾患の看護	講義
9		
10	感染症の子どもと家族の看護	講義
11	在宅療養中の子どもと家族の看護	講義
12	発達障害のある子どもと家族の看護	講義
13	子どもの虐待と看護	講義
14	障害のある子どもと家族の看護	講義
15	まとめ・終講試験/解答・解説	講義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 専門分野「小児看護学概論・小児臨床看護総論」「小児臨床看護各論」 医学書院
参考書	
備 考	

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	発達段階に応じた看護援助			担当講師	神 清美		
分 野	専門Ⅱ	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	後期
概 要	子どもに対する検査・処置を安全・安楽に行うためには、子どもの発達段階や解剖・生理の理解が重要である。今日、医療の中で脅かされがちな子どもの権利が奪われることなく看護が行われる機運が生じていることから、子どもの検査・処置の場面でも、子どもに対する説明と同意の配慮が求められている。それらを踏まえ本科目では、それぞれの発達段階にある子どもや家族の力が引き出せるような援助技術の習得を目指す。						
到達目標	1. 子どもの看護に必要なフィジカルアセスメント能力を身に着ける。 2. 検査・処置を受ける子どもの不安を緩和する看護の方法を理解する。 3. 子どもの解剖・生理、成長発達の基礎知識を生かしつつ、安全・安楽の観点から、検査・処置を行う方法を理解する。 4. 子どもの発達段階に応じた看護過程の展開方法を身につける。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	子どものフィジカルアセスメント 演習：バイタルサイン測定 身体計測	講義・演習
2		
3	子どもの特有の検査・処置 演習：検査・処置のプレパレーション	講義・演習
4		
5		
6		
7		
8	症状別にみる子どもの看護	講義・演習
9		
10	事故・外傷と看護 演習：一次救命処置 発達段階に応じた安全教育	講義・演習
11		
12	看護過程の展開	講義・演習
13		
14		
15	まとめ・終講試験/解答・解説	講義

評価方法	客観試験、レポート		
教科書	系統看護学講座	専門分野「小児看護学概論・小児臨床看護総論」	医学書院
	系統看護学講座	専門分野「小児臨床看護各論」	医学書院
参考書			
備 考			

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	妊婦・産婦の看護			担当講師	森 裕子		
分 野	専門Ⅱ	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	正常な妊娠経過および胎児の発育、分娩各期の特徴と出産までの過程を学び、健康状態を観察・評価するために必要な方法と技術について学習する。妊婦・産婦の身体的・精神的な変化と社会的背景をふまえて各期に起こりやすい健康問題とその援助方法について学ぶ						
到達目標	1. 正常な経過をたどる妊婦および産婦の生理を理解する 2. 妊婦・産婦の看護を提供するにあたり必要な看護技術を習得する						

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	遺伝 出生前診断 不妊治療と看護	講義
2	妊娠期における看護 妊娠の生理 妊娠期の身体的特徴	講義
3	妊娠期における看護 妊娠の生理 妊娠期の身体的特徴の看護	講義
4	妊娠期における看護 胎児の発育とそのその生理	講義
5	妊娠期における看護 妊娠期の心理・社会的特徴	講義
6	妊娠期における看護 妊婦と胎児のアセスメント	講義/演習
7	妊娠期における看護 妊娠期の心理・社会的特徴 妊婦体操	講義
8	妊娠期における看護 妊婦と家族の看護	講義
9	妊娠期における看護 妊娠期の看護過程	講義
10	妊娠期における看護 妊娠期の看護過程	講義
11	分娩期における看護 分娩期の要素	講義
12	分娩期における看護 分娩の経過	講義/演習
13	分娩期における看護 産婦と家族のアセスメント	講義
14	分娩期における看護 産婦と家族の看護	講義
15	まとめ・終講試験/解答・解説	講義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「母性看護学各論」医学書院
参考書	
備 考	※妊娠期の講義の中で妊娠中の運動としてヨガの演習を行います ※分娩期の講義中に分娩経過をモデル人形を使用し説明します ※しっかりと自己学習（予習・復習）してきて下さい。

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	褥婦・新生児の看護			担当講師	森 裕子		
分 野	専門Ⅱ	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	後期
概 要	正常な産褥経過と新生児の胎外生活への適応および、健康状態を観察・アセスメントするための方法と技術について学ぶ。褥婦の身体的・精神的な変化と社会的背景をふまえて起こりやすい健康問題とその援助法について学ぶ。母児相互作用の愛着形成、退院後の家族関係構築や育児、親としての役割獲得に向けての働きかけの重要性を学ぶ。						
到達目標	1. 正常な経過をたどる褥婦および新生児の生理を理解する 2. 褥婦・新生児の看護を提供するにあたり必要な看護技術を習得する 3. 周産期における対象の看護過程の展開方法を習得する						

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	産褥期における看護 産褥期の経過と看護	講 義
2	産褥期における看護 褥婦の看護過程	講 義
3	産褥期における看護 褥婦の看護過程	講 義
4	産褥期における看護 褥婦の看護過程	講 義
5	産褥期における看護 褥婦の看護過程	講 義
6	新生児期における看護 新生児の経過と看護	講 義
7	新生児期における看護 新生児の経過と看護 視聴覚学習	講義/視聴覚学習
8	新生児期における看護 新生児の経過と看護 沐浴実施	演 習
9	新生児期における看護 新生児の経過と看護 バイタルサイン	演 習
10	新生児期における看護 新生児の看護過程	講 義
11	新生児期における看護 新生児の看護過程	講 義
12	新生児期における看護 新生児の看護過程	講義/演習
13	母児の退院後の生活に向けての支援	講 義
14	母児の退院後の生活に向けての支援	講義/演習
15	まとめ・終講試験/解答・解説	講 義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「母性看護学各論」医学書院
参考書	
備 考	※新生児の沐浴は支援パンフレットを作成し演習に臨みます ※視聴覚学習では映像から実際の変化を学びます ※しっかりと自己学習（予習・復習）してきて下さい。

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	周産期にある人のハイリスク時の看護			担当講師	石渡 巖・森 裕子		
分 野	専門Ⅱ	授業方法	講義	実務経験			
単位数	1 単位	時 間	15 時間	学 年	2年次	学 期	後期
概 要	ハイリスク状態にある母性の対象の各期に起こりやすい疾患・病態・治療法について学ぶ。また、周産期にある対象の正常から逸脱による身体的・精神的・社会的側面に及ぼす影響と健康問題、看護ケアの方法について学ぶ。周産期医療におけるチーム医療と地域サポートシステムの現状とその必要性と役割についての学びを深める。						
到達目標	1. ハイリスク妊娠・分娩・産褥・新生児について理解する 2. ハイリスクな状況にある妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族の看護を理解する						
回	授 業 計 画 ・ 内 容					学習方法	
1	ハイリスク妊娠					講 義	
2	ハイリスク分娩					講 義	
3	ハイリスク新生児（早期）・ハイリスク褥婦					講 義	
4						講 義	
5	ハイリスク妊婦・産婦と家族の看護					講 義	
6	ハイリスク新生児（早期）と家族の看護					講 義	
7	ハイリスク褥婦と家族の看護					講 義	
8	まとめ・終講試験/解答・解説					講 義	
評価方法	客観試験						
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「母性看護学各論」 医学書院						
参考書							
備 考	※しっかりと自己学習（予習・復習）してきて下さい。						

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	精神看護学概論			担当講師	田端一成・鳥海真希・倉橋憲一 山本美帆子・寺門宏晃・永久保惣希		
分 野	専門Ⅱ	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2 年次	学 期	前期
概 要	若者の引きこもりや小中学生の不登校、うつ病や自殺、アルコール依存症、発達障害等心の問題や心の病気でケアを必要としている人は年々増え続けている。本科目では、人間の精神機能の理解を基盤に、精神看護の対象・目的、役割と機能を学ぶ。そして、家庭・学校・職場・地域という生活の場における精神保健問題を考えられる内容とする。さらに、精神保健医療福祉の変遷と制度を理解し、地域におけるメンタルヘルスの保持・向上に関する活動を学ぶ。						
到達目標	1. 精神の健康の意義を学び、精神看護の対象・目的、役割と機能を理解する。 2. 精神保健医療福祉の変遷を、歴史・社会・医療的見地から理解する。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	精神保健の基本 精神看護・精神の健康とは、精神障害者のとらえ方	講 義
2	精神保健の基本 精神障害の予防概念、心の機能と発達	講 義
3	精神保健の基本 精神の健康に及ぼす影響 レジリエンス	講 義
4	精神看護の基盤となる理論Ⅰ フロイトの発達理論・適応理論	講 義
5	精神看護の基盤となる理論Ⅱ ストレス・危機、偏見・差別・スティグマ	講 義
6	災害時の地域における精神保健医療活動	講 義
7	災害時の地域における精神保健医療活動 初期対応、治療の継続	講 義
8	人間の心のはたらきとパーソナリティ 人間の心の諸活動、心のしくみと人格の発達	講 義
9	人間の心のはたらきとパーソナリティ フロイトの発達理論・適応理論、ストレス・危機	講 義
10	関係の中での人間 ①全体としての家族 ②人間と集団	講 義
11	社会のなかの精神障害 精神保健医療福祉の変遷と法・施策 入院形態、精神保健指定医	講 義
12	社会のなかの精神障害 精神保健医療福祉の変遷と法・施策 処遇、隔離・身体拘束	講 義
13	精神保健医療福祉における多職種連携	講 義
14	社会資源の活用とケアマネジメント	講 義
15	まとめ/終講試験/解答・解説	講 義

評価方法	客観試験			
教科書	系統看護学講座「精神看護学①	精神看護の基礎」	医学書院	
	系統看護学講座「精神看護学②	精神看護の展開」	医学書院	
参考書	講義の中で指示する			
備考	*教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。			

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	精神に障害をもつ人の理解			担当講師	山里 道彦・小坂 宣靖		
分 野	専門Ⅱ	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2 年次	学 期	前期
概 要	精神に障害をもつ人を理解するために、本科目では、精神障害の分類や診断および検査法、代表的な治療法を学ぶ。また、精神に障害をもつ人とその家族が抱える健康問題について、その人らしい生活を目指し看護の場におけるそれぞれの役割を学ぶ。さらに、精神看護ならではのリスクとリスクマネジメントについて学習する。						
到達目標	1. 症状や状態によってもたらされる生活の変化を把握し、その診断、検査、治療を理解する 2. 精神に障害をもつ人の看護の基本を理解する。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	主な精神疾患と障害 精神症状論と状態像、脳機能と精神の障害	講 義
2	主な精神疾患と障害 統合失調症	講 義
3	主な精神疾患と障害 気分（感情）障害	講 義
4	主な精神疾患と障害 神経症性障害、ストレス障害、身体表現性障害	講 義
5	主な精神疾患と障害 生理的障害、身体的要因に関連した行動症候群、パーソナリティ障害	講 義
6	主な精神疾患と障害 器質性精神障害、精神および行動の障害	講 義
7	主な精神疾患と障害 てんかん、神経発達障害群、心身症	講 義
8	主な精神疾患と障害 薬物療法、電気痙攣療法	講 義
9	主な精神疾患と障害 精神療法、環境療法・社会療法	講 義
10	精神に障害をもつ人の理解と看護 疾患の看護	講 義
11	精神に障害をもつ人の理解と看護 臨床検査および心理検査と看護	講 義
12	精神に障害をもつ人の理解と看護 薬物療法と看護	講 義
13	精神看護のリスクマネジメント セーフティマネジメント行動制限、自殺行為	講 義
14	精神看護のリスクマネジメント セーフティマネジメント攻撃・暴力、災害時の安全確保	講 義
15	まとめ/終講試験/解答・解説	講 義

評価方法	客観試験		
教科書	系統看護学講座「精神看護学① 精神看護の基礎」	医学書院	
	系統看護学講座「精神看護学② 精神看護の展開」	医学書院	
参考書			
備考	* 教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。		

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	精神看護の基本技術			担当講師	小坂 宣靖		
分 野	専門Ⅱ	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	15 時間	学 年	2 年次	学 期	後期
概 要	精神障害や精神症状をもった人の精神の健康増進・回復は、人とのコミュニケーションによって信頼関係を築くことが重要である。本科目では、精神を病む人と看護師の治療的人間関係成立に必要な技術として、コミュニケーション、看護場面再構成を演習を通して学ぶ。						
到達目標	1. 精神を病む人への看護援助の基本について理解する。 2. 精神看護の接近技法を学び、対象理解および援助に必要な働きかけ方を理解する。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	ケアの人間関係 (1) 精神看護に用いる理論	講 義
2	ケアの人間関係 (2) 精神看護におけるケアの原則	講 義
3	ケアの人間関係 (3) プロセスレコード①(理論)	講 義
4	ケアの人間関係 (4) プロセスレコード②(演習)	演 習
5	ケアの人間関係 (5) プロセスレコード③(演習)	演 習
6	ケアの人間関係 (6) コミュニケーション、ロールプレイ	演 習
7	ケアの人間関係 (7) コミュニケーション、ロールプレイ	演 習
8	まとめ/終講試験/解答・解説	講 義

評価方法	客観試験 課題の提出
教科書	系統看護学講座 「精神看護学① 精神看護の基礎」 医学書院 系統看護学講座 「精神看護学② 精神看護の展開」 医学書院
参考書	講義の中で指示する
備考	*教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒
科目名	精神に障害をもつ人の生活と看護			担当講師	小坂 宣靖	
分野	専門Ⅱ	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験	
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2 年次	学 期 後期
概 要	心の問題や心の病気でケアを必要としている人は年々増加している。本科目では、精神症状をきたしながら生活をするとはどういったことか、そして対象とその家族にとって、どのような看護が必要かを学ぶ。さらに、統合失調症をもつ人の特徴に合わせた看護過程の展開を学習する。					
到達目標	1. 精神に障害をもつ人の特徴を理解する。 2. 精神に障害をもつ人とその家族の看護を理解する。 3. 精神に障害をもつ人の特徴にあわせた看護過程の実際を理解する。					

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	幻覚、妄想を持つ人の看護	講 義
2	抑うつ状態にある人の看護・そう状態にある人の看護	講 義
3	認知症状態にある人の看護・せん妄状態にある人の看護	講 義
4	興奮状態にある人の看護・不安状態にある人の看護	講 義
5	意欲減退状態にある人の看護・引きこもり状態にある人の看護	講 義
6	自殺・自傷行為がある人の看護・不眠状態にある人の看護	講 義
7	操作をする人の看護・拒絶をする人の看護	講 義
8	摂食障害のある人の看護・依存状態にある人の看護	講 義
9	精神に障害をもつ人への看護過程の展開 PS「統合失調症」	講 義・演習
10	精神に障害をもつ人への看護過程の展開 PS「統合失調症」	演 習
11	精神に障害をもつ人への看護過程の展開 PS「統合失調症」	講 義・演習
12	精神に障害をもつ人への看護過程の展開 PS「統合失調症」	演 習
13	精神に障害をもつ人への看護過程の展開 PS「統合失調症」	講 義・演習
14	精神に障害をもつ人への看護過程の展開 PS「統合失調症」	演 習
15	まとめ/終講試験/解答・解説	講 義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 「精神看護学① 精神看護の基礎」 医学書院 系統看護学講座 「精神看護学② 精神看護の展開」 医学書院
参考書	講義の中で指示する
備 考	* 教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	成人看護学実習Ⅰ			担当講師	学科専任教員・実習指導教員・ 臨地実習指導者		
分野	専門Ⅱ	授業方法	実習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	2単位	時間	90時間	学年	2年次	学期	後期
概要	健康障害を持ちながら生活する成人期の対象のセルフマネジメントに向けた看護が実施できる						
到達目標	1) 慢性期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を述べられる 2) 対象の健康障害が日常生活に及ぼす影響を述べられる 3) セルフマネジメントが必要な対象の看護過程が展開できる 4) セルフマネジメントに向けた援助が実施できる 5) 社会生活継続のために必要な社会資源が述べられる 6) 学習者として責任ある態度を表現できる						
時間	授 業 計 画 ・ 内 容						
90	84時間（7時間×12日）の臨地実習と、6時間（3時間×2日間）の学内実習で構成される。 セルフマネジメントに向けた看護について学ぶ。						
評価方法	実習中は担当教員及び臨地実習指導者が援助状況を観察し、提出された記録物を確認する。 実習後に担当教員が実習評価表を用いて総括的評価を行う。						
教科書							
参考書							
備考							

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	成人看護学実習Ⅱ			担当講師	学科専任教員・実習指導教員・ 臨地実習指導者		
分野	専門Ⅱ	授業方法	実習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	2単位	時間	90時間	学年	3年次	学期	前期または後期
概要	健康の危機状況にある対象の回復過程を支援する看護が実施できる						
到達目標	1) 健康の危機状況にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を説明できる 2) 健康障害や侵襲が対象に及ぼす影響を説明できる 3) 健康危機状況に応じた看護過程の展開ができる 4) 対象の回復過程に合わせた援助が実施できる 5) 健康危機状況にある対象とその家族に必要な援助を説明できる 6) 学習者として責任ある態度を表現できる						
時間	授 業 計 画 ・ 内 容						
90	84時間（7時間×12日）の臨地実習と、6時間（3時間×2日間）の学内実習で構成される。 健康危機状況における看護について学ぶ。						
評価方法	実習中は担当教員及び臨地実習指導者が援助状況を観察し、提出された記録物を確認する。 実習後に担当教員が実習評価表を用いて総括的評価を行う。						
教科書							
参考書							
備考							

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	成人看護学実習Ⅲ			担当講師	学科専任教員・実習指導教員・ 臨地実習指導者		
分野	専門Ⅱ	授業方法	実習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	2単位	時間	90時間	学年	3年次	学期	前期または後期
概要	障害を持つ対象のリハビリテーション及びセルフケア再獲得のための看護が実施できる						
到達目標	1) 障害をもつ対象の身体的・精神的・社会的特徴が説明できる 2) 対象のセルフケア能力がアセスメントでき、日常生活への影響を説明できる 3) 対象のセルフケア再獲得のための看護過程が展開できる 4) 対象のセルフケア再獲得に向けた援助が実施できる 5) 社会復帰に向けたチームアプローチにおける看護の役割を述べられる 6) 学習者として責任ある態度を表現できる						
時間	授 業 計 画 ・ 内 容						
90	84時間（7時間×12日）の臨地実習と、6時間（3時間×2日間）の学内実習で構成される。セルフケア再獲得に向けた看護について学ぶ。						
評価方法	実習中は担当教員及び臨地実習指導者が援助状況を観察し、提出された記録物を確認する。実習後に担当教員が実習評価表を用いて総括的評価を行う。						
教科書							
参考書							
備考							

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	老年看護学実習Ⅰ			担当講師	学科専任教員・実習指導教員・ 臨地実習指導者		
分野	専門Ⅱ	授業方法	実習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	2単位	時間	90時間	学年	2年次	学期	後期
概要	老年期にある対象の身体的、精神的、社会的特徴をとらえ、その人の日常生活援助に必要な基礎的知識・技術・態度を養う						
到達目標	1) 高齢者の身体的・精神的・社会的変化の特徴が述べられる 2) 対象の加齢に伴う変化が日常生活に及ぼす影響を説明できる 3) 対象の個別性を尊重したニーズを考えられる 4) 看護計画に基づいた援助を実施できる 5) 対象の生活の場である各施設の役割と特徴が説明できる 6) 学習者としての責任ある態度を表現できる						
時間	授 業 計 画 ・ 内 容						
90	84時間（7時間×12日）の臨地実習と、6時間（3時間×2日間）の学内実習で構成される。 老年期にある対象の特徴について学ぶ。						
評価方法	実習中は担当教員及び臨地実習指導者が援助状況を観察し、提出された記録物を確認する。 実習後に担当教員が実習評価表を用いて総括的評価を行う。						
教科書							
参考書							
備考							

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	老年看護学実習Ⅱ			担当講師	学科専任教員・実習指導教員・ 臨地実習指導者		
分野	専門Ⅱ	授業方法	実習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	2単位	時間	90時間	学年	3年次	学期	前期または後期
概要	老年期にある健康障害を持つ対象への看護を実施するために必要な基礎的な知識・技術・態度を養う						
到達目標	1) 健康障害をもつ対象の身体的・精神的・社会的特徴が述べられる 2) 対象の健康状態をアセスメントできる 3) 看護計画に基づいた援助を実施できる 4) 多い職種との連携や継続看護の必要性が述べられる 5) 学習者としての責任ある態度を表現できる						
時間	授 業 計 画 ・ 内 容						
90	84時間（7時間×12日）の臨地実習と、6時間（3時間×2日間）の学内実習で構成される。 老年期にある対象への看護を実施するために必要な基礎的な知識・技術・態度について学ぶ。						
評価方法	実習中は担当教員及び臨地実習指導者が援助状況を観察し、提出された記録物を確認する。 実習後に担当教員が実習評価表を用いて総括的評価を行う。						
教科書							
参考書							
備考							

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	小児看護学実習			担当講師	学科専任教員・実習指導教員・ 臨地実習指導者		
分野	専門Ⅱ	授業方法	実習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	90 時間	学 年	3 年次	学 期	前期または後期
概 要	あらゆる成長発達・健康レベルにある子どもとその家族に応じた看護を実施するための基礎的知識・技術・態度を養う						
到達目標	1) 子どもの成長・発達の特徴が述べられる 2) 健康障害をもつ子どもと家族に必要な看護が実施できる 3) 子どもをめぐる保健・医療・福祉・教育の機能と連携の必要性を説明できる 4) 小児看護の役割を説明できる 5) 学習者としての態度が表現できる						
時間	授 業 計 画 ・ 内 容						
90	70時間（7時間×10日）の臨地実習と、20時間の学内実習で構成される。 あらゆる成長発達・健康レベルにある子どもの看護について学ぶ。						
評価方法	実習中は担当教員及び臨地実習指導者が援助状況を観察し、提出された記録物を確認する。 実習後に担当教員が実習評価表を用いて総括的評価を行う。						
教科書							
参考書							
備 考							

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	母性看護学実習			担当講師	学科専任教員・実習指導教員・ 臨地実習指導者		
分野	専門Ⅱ	授業方法	実習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	2単位	時間	90時間	学年	3年次	学期	前期または後期
概要	周産期の対象をリプロダクティブヘルス／ライツの視点をもち、母子とその家族への看護を実施するための基礎的知識と技術・態度を養う						
到達目標	1) 周産期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴が説明できる 2) 周産期にある対象の経過と個別性に合わせた看護が展開できる 3) 生命の誕生、母子・家族への看護を通して生命の尊厳が考察できる 4) 地域子育て支援センター実習の実際を通して機能、役割が述べられる 5) 学習者として責任ある態度を表現できる						
時間	授 業 計 画 ・ 内 容						
90	63時間（7時間×9日）の臨地実習と、27時間の学内実習で構成される。 周産期にある対象の看護について学ぶ。						
評価方法	実習中は担当教員及び臨地実習指導者が援助状況を観察し、提出された記録物を確認する。 実習後に担当教員が実習評価表を用いて総括的評価を行う。						
教科書							
参考書							
備考							

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	精神看護学実習			担当講師	学科専任教員・実習指導教員・ 臨地実習指導者		
分野	専門Ⅱ	授業方法	実習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	2単位	時間	90時間	学年	3年次	学期	前期または後期
概要	精神に健康障害を持つ対象の個別に応じた看護を実践するために必要な基礎的知識・技術・態度を養う						
到達目標	1) 精神医療の実際から治療的環境が説明できる 2) 対象の日常生活の自律に向けた看護が実施できる 3) 対象との関わりを通し自らを振り返りができる 4) 社会復帰を目指し対象に必要な支援が実施できる 5) 対象を尊重した態度が表現できる 6) 学習者として責任のある態度が表現できる						
時間	授 業 計 画 ・ 内 容						
90	84時間（7時間×12日）の臨地実習と、6時間の学内実習で構成される。 精神に健康障害を持つ対象の看護について学ぶ。						
評価方法	実習中は担当教員及び臨地実習指導者が援助状況を観察し、提出された記録物を確認する。 実習後に担当教員が実習評価表を用いて総括的評価を行う。						
教科書							
参考書							
備考							